

## 地域課題 「8050 問題について」

### 1. 概要

一般的な定義としては、「80 代の親が 50 代の引きこもりや無職の子どもを養っている」状態。

50 代の子が何らかの原因で引きこもり状態となり、そのまま生活が苦しくなったり、地域から孤立して問題となっている状態。本人たちが周りに相談をせず、周囲の人間が気づいたり支援に入らないまま、引きこもりの状態が長期化する傾向がある。

### 2. 当委員会での取扱経過

#### ・令和 4 年 8 月 22 日（令和 4 年度第 1 回委員会）

「8050 問題」について概略を説明、認識の共有をはかった。

#### ・令和 5 年 1 月 19 日（令和 4 年度第 2 回委員会）

事例となるケースを元に、本人や家族が高齢化する前、生活歴やライフステージごとにどんな課題があるのか？を話し合った。

#### ・令和 5 年 8 月 3 日（令和 5 年度第 1 回委員会）

管内各町で現在把握されている 8050 問題と思われるケースについて概要や町ごとの取組みを報告してもらった他、管内の生活保護申請ケースの動向から、そうしたケースがどのように生活困難に至るかの事例紹介を行った。

### 3. 今回（令和 5 年度第 2 回委員会）で話し合う内容

問題の起き方もそこに至る経緯も、色々な要素があるのが 8050 問題の特徴。親の高齢化がきっかけとなって発覚することが多いので「8050 問題」と呼ばれているが、その年代だけの問題ではないと考えられる。

これまで委員会の中で話してきたケースの内容から、檜山という地域の中でこの問題の特徴や、関係機関での関わり方を考え、課題に対するまとめとする。

→ 「18 歳になる前」

「18 歳になった後」

の二つのライフステージそれぞれについての視点で考える。

## 地域課題「8050問題」について当委員会で話し合ったこと

テーマ1. 「18歳になる前」の問題点・課題など	支援者・関係機関はどのように支援をしていくべきか？
<p>・子ども時代に発達の遅れや知的な障がい疑われる子どもがいても、支援する機関が変わるタイミングでその情報が失われやすい（幼稚園・保育園→小学校→中学校→高等学校）</p>	
<p>・自分の子どもに障がいがあるということを親や親族が隠したい、受け入れられない。支援者や関係機関も、親や親族が関わりを拒んだ場合はなかなか介入できない。</p>	
<p>・小さな人間関係の中だと、周囲が色々と手を貸すことで、本人の「できない部分」が見過ごされてしまう。周囲や本人も気づかないまま大人になってしまう。</p>	
<p>・実際に不登校になっていても、本人は安心できる環境にいると感じていることもある。「将来のために周囲が心配すること」と、「本人の意思・希望」がかみ合わないことがある。</p>	

## 地域課題「8050問題」について当委員会で話し合ったこと

テーマ2. 「18歳になった後」の問題点・課題など	支援者・関係機関はどのように支援をしていくべきか？
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職して実家から離れた時に、社会のペースについていけなくなる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校で何か問題が見られたとしても、普通高校に入って卒業すると「普通」の能力があるとみなされ、本当は必要なはずの配慮が得られない。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元から離れて就職した場合、社会に適応できずに実家に戻り、そのままひきこもってしまうことがある。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今30代くらいまでの人だと、過去に関係機関の関わりがあれば情報があるが、40代、50代以上は関係機関にも情報がなく、どんな人かが分からない。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の子どもに障がいがあるということを親や親族が隠したい、受け入れられない。支援者や関係機関も、親や親族が関わりを拒んだ場合はなかなか介入できない。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「8050問題」と言われるように、一般に問題視されるのは親や本人が高齢化してからだ。そこに至る前の時期でも根は同じ問題である。</li> </ul>	

## 第2回 障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会

参考資料

「障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」の今年度のテーマは「8050問題」となっています。各町の状況を確認させていただき、今後の委員会の参考資料とさせていただきます。

### 【確認事項】

①	8050問題に該当するであろうと思われるケースは？ ※把握できている件数でいいです。	59件
②	把握できているケースへの支援は？	
	ア、関係機関と近隣住民も含めた見守り	23件
	イ、相談員＋行政（担当者・保健師・包括）の定期的な訪問	33件
	ウ、親…介護保険サービスに繋がっている（申請中）	12件
	エ、子ども…障がい福祉サービスに繋がっている（申請中）	16件
	オ、関係機関の介入が困難…理由又は原因 ○周囲から自分たちが特別視されるのではとの思いから介入を拒否。 ○親が支援を受けることを拒否～まだ自分たちで面倒見るといった考えが背景にある。	3件
③	その他…地域の課題等 ○8050の50の部分、「親亡き後」ケースの子の方に対する支援を考えると、（地域の中で）子が利用するサービスの選択肢が少ない。 ○社会人になって、障がい認定され自宅に戻ったケースが潜在化していると思われる。	

## 今まで皆さんからいただいた意見

○今は不登校の生徒が増えている。家が安心して居られる場所になっているのは分かる。

学校を卒業し、実家に引きこもっている現状で、相談機関や行政と繋がっていないケースがある。  
支援者を必要としていないのか、そもそも相談機関とどうつながっているのか分からないのか？

○引きこもっている子どもを抱えている親の意識は？自分が生きているあいだは見る。

終活は財産だけでなく、人（家族）の終活も含まれるイメージもあるのでは？

支援の介入…生命の危機に係る場合は、本人の保護が優先されるが、そこに本人の意思確認はできているか？が重要であり、せめて選択肢があることが望ましい。

自宅訪問で見えてくる現実…親の年金（経済的な援助）で生活できていることが多く、福祉サービス優先ではない現実も見える。

○引きこもりになった理由・原因～背景

気づきは…いつ・誰が・どこで・どう気づいていたか？

障害が明確になっていない子ども・心配な子どもはどのようにつなげていくのか？

※次に引き継ぐシステムが理解されていない

→学校・相談機関と行政が連携して、情報共有している支援体制を確立するとともに、広く住民に周知していきたい。